

安曇野市水道ビジョン

計画期間：平成29年度～令和9年度

(令和4年度時の計画期間は平成29年度～令和8年度でしたが、令和5年3月の水道ビジョンの改定により上記計画期間に変更しています。当事業評価は改定時前の評価となります。)

令和4年度 事業評価報告書

令和5年9月

安曇野市 上下水道部

安曇野市水道ビジョンの基本目標と基本方針について

厚生労働省では、時代や環境の変化に対して的確に対応しつつ、水質基準に適合した水が、必要な量、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価をもって、持続的に受け取ることが可能な水道を理想像として掲げています。

安曇野市の水道も将来像の実現に向けて、様々な課題の解決に取り組むため、その取り組みの目指す方向性を次のように定めています。



いつ飲んでも安全な水道

いつでもどこでも、安全に飲める水道を目指します。



災害に強く、しなやかな水道

自然災害等で被災した場合でも、迅速に復旧できる水道を目指します。



いつまでも地域にあり続ける水道

給水人口や給水量の減少に対しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な水道を目指します。



皆様に信頼され、共につくる水道

多様化するニーズに応え、世代を超えて利用される水道を目指します。

安曇野市水道ビジョンの施策体系について

基本理念

清らかで良質な水をいつまでも
～信頼を未来へつなぐ安曇野の水道～

基本目標	主要施策	実現方策
安全 いつ飲んでも 安全な水道	水源から蛇口までの徹底した水質管理	1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携 2 水安全計画の策定 3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成 4 水道管内の点検と洗浄 5 濁度計の設置
強靱 災害に強く、 しなやかな 水道	- 災害に強い施設の整備 - バックアップシステムの構築 - 危機管理体制の充実強化	1 指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化 2 非常用電源設備の整備 3 他水源からの配水が可能となる施設整備 4 防災訓練の実施 5 震災等を想定した災害対策マニュアルの作成
持続 いつまでも 地域にあり 続ける水道	- 計画的な施設更新と規模の適正化 - 経営基盤の強化 - 未普及地域への対応	1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施 2 水源施設の老朽化診断 3 アセットマネジメントの実践 4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討 5 人口減少地域における消火施設のあり方の検討 6 水道料金水準の適正化の検討 7 水道への切り替えの推進
信頼 皆様に信頼さ れ、共につく る水道	利用者とのコミュニケーションの充実	1 情報公開の充実 2 施設見学会の実施 3 水道利用者のニーズの把握

令和4年度の水道ビジョン進捗状況を

点検・評価しました。

□点検評価基準

昨年同様、以下の基準により点検・評価を行いました。

評価基準		
達成率	評価	
95%以上	A	目標どおり
95%未満 85%以上	B	目標をやや下回る
85%未満	C	目標を下回る

例：令和4年度末の「濁度計の設置」
 ・20箇所（100%）設置が最終目標値
 ・令和4年度末の目標値は66%（12か所）
 ・平成29年度～令和4年度末までに13箇所設置
 ・実績率は13箇所/20箇所で65%（小数点切捨て）
 ・ $65\% \div 66\% \times 100 \div 98\%$

定量的な評価が難しい項目について

達成率について、定量的な評価が難しい項目は下記一覧表で「空欄（目標値備考欄：定量困難）」となっていますが、以下の要領で評価します。
 「具体的に〇〇に取り組んだ。」「予定していた事業を完了し、予定どおりの成果が出ている。」場合は「A」
 「〇〇を検討している。」「取組を開始している。」場合は「B」
 「未着手」の場合は「C」。

(単位：%)

実 現 方 策			年次毎目標値②（水道ビジョン方策数値年度按分）										目標値備考	策定時 数値 a	中 間 目標値 b	最 終 目標値 c	ビ ジ ョ ン 掲 載 ページ
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目					
			H29度	H30度	R元度	R2度	R3度	R4度	R5度	R6度	R7度	R8度					
20件																	
安全	1	水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携											定量困難				34
	2	水安全計画の策定	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	
	3	水質事故発生時の行動マニュアルの作成	-	50	100	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	
	4	水道管内の点検と洗浄											定量困難				
	5	濁度計の設置	-	35.25	45.5	55.75	66	66	74.5	83	91.5	100	整備率	25	66	100	
強 制	1	指定避難所等重要給水施設への給水ルートの耐震化	-	27.98	33.45	38.93	44.4	49.88	55.36	60.84	66.32	71.8	耐震化率	22.5	44.4	71.8	39
	2	非常用電源設備の整備	-	-	-	-	25	-	43.75	62.5	81.25	100	整備率	25	25	100	
	3	他水源からの配水が可能となる施設整備	-	33.33	66.67	100	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	-	
		（1）豊科・明科地域整備事業	-	33.33	66.67	100	-	-	-	-	-	-	整備率	-	100	100	
		（2）穂高豊里整備事業	-	-	-	-	-	-	50	100	-	-	整備率	-	-	100	
	4	防災訓練の実施											定量困難				42
	5	震災等を想定した災害対策マニュアル	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	100	100	
持 続	1	老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施	78.64	79.38	80.12	80.86	81.6	82.36	83.12	83.88	84.64	85.4	有収率	77.9	81.6	85.4	
	2	水源施設の老朽化診断（14か所）	21.4	42.8	64.2	78.4	92.6	100	-	-	-	-	調査率	0	92.9	100	
	3	アセットマネジメントの実践	3/14	3/14	3/14	2/14	2/14	1/14									
	4	施設の統廃合やダウンサイジングの検討	-	-	50	-	75	100	-	-	-	-	定量困難				
		（1）豊科・明科地域整備事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	0	75	100	
		（2）明科潮沢系施設の再構築	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	進捗率	-	-	-	
	5	人口減少地域における消化施設のあり方の検討											整備率	-	-	-	
	6	水道料金水準の適正化の検討	-	-	100								定量困難				
	7	水道への切替えの推進					99.6					100	普及率	99.3	99.6	100	
信 頼	1	情報公開の充実											定量困難				44
	2	施設見学会の実施											定量困難				
	3	水道利用者のニーズの把握											定量困難				

安曇野市水道ビジョンの令和4年度施策の点検評価結果

1 令和4年度施策の点検評価結果の概要

実現方策16件のうち来年度以降の施策1件を除く15件について評価した結果、A評価10件、B評価3件、C評価2件となった。
C評価の施策については、課題を解消し目標達成を目指す。

2 基本方針別の評価結果と今後の課題・方向性

(1) 安全

- ・徹底した水質検査により安全性を確認することができた。今後も適切な水質管理を行う。
- ・濁度計の設置について、順調に実施されている。今後、設置計画の見直しを行う。

(2) 強 靱

- ・重要給水施設への給水ルートの耐震化(主要管路整備)について、目標達成には至っていないが穂高・三郷地域については、令和5年度事業完了を目指し整備を実施していく。また新たな整備地区の選定を行い、計画・設計を進める。
- ・防災訓練の実施については、2年ぶりに、緊急招集訓練、現地での給水所開設訓練を実施することができた。引き続き、訓練方法及び内容等を検討し実施する。

(3) 持 続

- ・老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施については、緊急性の高い漏水が多発している老朽管の布設替を積極的に行い、有収率を上げることができた。今後も、漏水調査と老朽管布設替を合わせて実施し、有収率の向上を目指す。
- ・水源施設の老朽化診断において、診断可能な施設についてはすべて完了した。
- ・「人口減少地域における消火施設のあり方の検討」、「水道への切替えの推進」に関しては、引き続きの対応を行う。

(4) 信頼

- ・既に水道は普及浸透しているため、利用に関する要望は多く寄せられないが、接続の要望に対して個別に対応していく。
- ・水質検査結果や水道事業会計の財務状況など情報発信を行っている。引き続き水道の大切さを理解してもらうために利用者とのコミュニケーションの充実を図る。

基本理念：清らかで良質な水をいつまでも

【計画期間：平成29年度～令和8年度】

上水道

基本目標	ページ ナンバ ー	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目標値	R 3 までの 実績率	令和 4 年度						
						単年度目標	単年度実績	年 次 目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率	評価	コメント欄
安全 いつ飲んでも安全な水道	34	水源から蛇口 までの徹底し た水質管理	1 水質検査結果の適切な把握と関係機関との連携 (H29～ R 8)	—	—	①水質検査の公表を毎月更新する。 ②水質異常の際は関係機関へ即座に水質検査の実施を依頼する。 ③畑作地帯の水源水質結果の推移を確認する。	①毎月実施できた。 ②関係機関との連携は問題なく実施できた。 ③水質検査の結果、数値はすべて基準値以内であった。	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	A	成 果 水質検査により水道の安全性を確認できた。
										課 題 特になし。		
										今後の方向性 引き続き水質検査結果の推移を確認し、必要に応じて関係部局と連携を図り対応していく。		
			2 水安全計画の策定 (H30～ R 2)	100% ※毎年度確認し、必要により改訂予定	100%	令和 2 年度策定完了						
			3 水質事故発生時の行動マニュアルの作成 (H30～ R 2)	100% ※毎年度確認し、必要により改訂予定	100%	令和 2 年度作成完了						
			4 水道管内の点検と洗浄 (H29～ R 8)	—	—	豊科地域において洗管業務を実施する。	以前行ったカメラ調査に基づき、比較的付着物や堆積物の多かった 2 路線について洗管を実施した。	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	A	成 果 配水管内の洗浄を行い、付着物や堆積物の除去ができた。
										課 題 場所によって断水が難しかったり、仮設の費用が大きくなってしまう。		
										今後の方向性 濁りの問題以外の、水質の苦情があるような系統の調査や洗管についても検討をしていく。		
			5 濁度計の設置 (H30～ R 8)	100%	60%	宮城水源に濁度計を設置する。	宮城水源に濁度計を設置した。	整備率 66.0%	65%	98%	A	成 果 宮城配水池系統に対して濁度対策が完了した。
										課 題 設置費用が高額のため、中長期的な設置計画の見直しを要す。		
										今後の方向性 設置箇所の見直しを検討する。		

水道ビジョン点検・評価シート						【計画期間：平成29年度～令和 8 年度】						上水道	
基本目標	ページ ン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目標値	R 3 までの 実績率	令和 4 年度							
						単年度目標	単年度実績	年 次 目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率	評価	コメント欄	
強 靱 災害に強く、 しなやかな水道	39	災害に強い施設 の整備	1 指定避難所等重要給 水施設への給水ルー トの耐震化 (H30～ R 8)	71. 8%	36. 8%	主要管路整備 穂高・三郷 L=2, 658. 6m	主要管路整備 穂高 L=1, 335. 1m 三郷 L=1, 221. 2m 計 L=2, 556. 3m (2. 6km) 当初耐震化率22. 5% 11. 8km (H30～R 4) 14. 6km (整備前) 46. 45km(ビ ジョン期間目標値) 64. 7km (目標値)	49. 88%	56. 8%	82%	C	成 果 水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の 重要給水施設と拠点配水池を結ぶ給水ルート の耐震化を、計画どおり進 めることができた。	
			令和 7 年度以降										
			バックアップ システムの構築	3 他水源からの配水が 可能となる施設整備 (豊科・明科地域整備 事業分 H29 ～R 2) (穂高豊里整備事業 分 R 4～R 6)			—	令和 2 年度(R3. 3月)に完了済。 令和 4 年度事業 送水管布設工事 L=432. 7m	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	A	成 果 豊科・明科地域整備事業は令和 2 年度に完了。 令和 4 年度から穂高豊里整備事業について、設計調査、工事に着手し た
				—									
	今後の方向性 穂高豊里整備事業に関しては、引き続き送水管路と送水ポンプ場の整備 を進める。												
	39	危機管理体制 の充実強化	4 防災訓練の実施 (H29～ R 8) *経営管理課	10回	3回	最低年 1 回は実施。	防災訓練の実施 緊急招集訓練 現地での給水所開設訓練 合わせて、安曇野市情報共有シ ステムを使用し、 情報収集・発信 訓練も実施。	定量的な 評価が 困難な 項 目	—	—	A	成 果 2 年ぶりに防災訓練を実施し、緊急招集訓練、現地での給水所開設訓練 を実施した。	
			課 題 安曇野市情報共有システムを活用した、災害対応情報の共有になれる。										
			今後の方向性 令和 4 年度に引続き実施予定。災害発生時に何をしなくてはいけないか 実践的に検証していく。										
				5 震災等を想定した災 害対策マニュアルの 策定 (R 元) 経営管理課	100% ※毎年度確 認し、必要 により改訂 予定	100%	令和元年度策定完了						

水道ビジョン点検・評価シート						【計画期間：平成29年度～令和 8 年度】						上水道					
基本目標	ページン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目標値	R 3 までの 実績率	令和 4 年度											
						単年度目標	単年度実績	年 次 目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率	評価	コメント欄					
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 1 / 2	42	計画的な施設更新と規模の適正化	1 老朽管の計画的な更新と漏水調査の実施 (H29～ R 8)	85. 4%	79. 0%	配水管（老朽）布設替工事 路線 L＝3, 014m 見込。	9 路線 L＝2, 952. 7m 実施。予定箇所 の精算により実施。	有収率 82. 36%	79. 60%	97%	A	成 果 当初見込みの配水管布設替予定箇所の実施と延長の精査により、緊急性の高い漏水多発箇所の対応が迅速に行うことができた。					
						明科川東配水系の漏水調査 を実施する。	配水管延べ48km 及び給水管の漏水 調査を実施した。 計11箇所の漏水確認後、漏水修繕 を実施した。					課 題 老朽管の計画的な布設替は重要だが、他の事業と並行して実施していく ので、施工延長を伸ばすことが難しい。漏水調査は、漏水発生箇所を中心に進めていくが調査範囲の絞り込みが容易でない。					
						今後の方向性 今後も漏水調査と老朽管の布設替を並行実施し、有収率の向上を図る。											
			2 水源施設の老朽化診断 (H29～ R 4)	100%	92. 3%	耐用年数を経過した井戸 1 箇所の調査を実施する。	上長尾第 2 水源地の調査を実施した。	調査率 100%	100. 0%	100%	A	成 果 上長尾第 2 水源地は調査に併せて揚水試験も行い、当面改修の必要はないことが確認できた。					
												課 題 水源が少ない配水系の場合、数日間井戸を停止してのカメラ調査ができない。					
												今後の方向性 －					
			3 アセットマネジメントの実践 (H29～ R 8)	－	－	①布設（替）するすべての 铸铁管にポリスリーブ巻を 行う。 ②更新については、設備投資計画及び目標値を設定し更新する。	①布設（替）するすべての铸铁管にポリスリーブ巻を施工。 ②設備投資計画及び目標値に基づき翌年度の実施計画を策定済み。	定量的な 評価が 困難な 項 目	－	－	B	成 果 ポリスリーブ巻は铸铁管すべてにおいて実施。投資計画に基づく次年度施工予定箇所については、事前設計を行い効率的に発注し施工できた。					
												課 題 実施計画による工事発注をする中で、漏水事案等による突発的な施工順位の変更への対応が容易でない。					
												今後の方向性 投資計画に基づく実施計画を策定し、効率的に施設・管路の更新を進める。					
			4 施設の統廃合やダウンサイジングの検討 (豊科・明科地域整備事業分 H29～R 2) (明科潮沢系施設の再構築 R5～R6)	－	－	－	令和 2 年度に豊科・明科地域整備事業の整備が完了した。	定量的な 評価が 困難な 項 目	－	－	A	成 果 豊科・明科地域整備事業は令和 2 年度に事業完了となった。 また、明科潮沢系施設の再構築について今後の整備方針の検討を行った。					
							事業内容の再検討を含め、令和 5 年度から実施。					課 題 －					
							今後の方向性 明科潮沢系配水施設整備事業に関しては、令和 5 年度から実施予定。 水道事業の広域連携に対して、検討を進める。										
			5 人口減少地域における消火施設のあり方の検討 (H29～ R 3)	－	－	地域住民と防災担当と協議体制の構築。	防災担当部局と検討を進める。	定量的な 評価が 困難な 項 目	－	－	B	成 果 －					
												課 題 防火水槽の設置には、広い土地が必要になり設置が難しい。					
												今後の方向性 地域住民と市の防災担当（危機管理課）と協議し必要箇所があれば対応していく。					

水道ビジョン点検・評価シート						【計画期間：平成29年度～令和 8 年度】						上水道								
基本目標	ビジョン	主要施策	実現方策 (計画期間)	最 終 目標値	R3 までの 実績率	令和 4 年度														
						単年度目標	単年度実績	年 次 目標値	最終目標値 に対する 実績率①	達成率	評価	コメント欄								
持続 いつまでも地域にあり続ける水道 2 / 2	42	経営基盤の強化	6 水道料金水準の適正化の検討 (H29～ R 8) 経営管理課	100%	100%	令和元年度水道料金統一														
			未普及地域への対応	7 水道への切替えの推進 (H29～ R 8)	—	—	水道普及率が水道ビジョン策定時に99.3%と高数値であり、ほぼ普及している状況であるため、接続要望相談の際は個別に対応を行う。併せて、水質検査結果を市ホームページで公開。	井戸を使用していた住宅の井戸ポンプが故障したことを受けて、費用の一部を市が負担する形で配水管布設工事を行い、井戸から市上水道への切替えが1件あった。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	成 果							
		井戸から市上水道への切替を1件実施した。																		
		課 題																		
		—																		
今後の方向性																				
接続要望の相談の際には、費用負担などを含めて個別に対応していく。																				
信頼 皆様に信頼され、共につくる水道	44	利用者とのコミュニケーションの充実	1 情報公開の充実 (H29～ R 8)	—	—	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新する。	安曇野市ホームページで毎月水質検査結果を更新した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	成 果								
						水質状況や経営状況を的確に発信できた。														
			2 施設見学会の実施 (H29～ R 8)	—	—	安曇野市ホームページで公営企業予算・決算、経営比較分析表を公開する。	安曇野市ホームページで公営企業予算・決算、経営比較分析表を公開した。	定量的な評価が困難な項目	—	—	A	課 題								
						よりわかりやすい広報のため、内容の充実が必要。														
						今後の方向性														
						水質検査、経理関係の情報公開は継続して実施を行う。わかりやすい情報発信に努める。														
		3 水道利用者のニーズの把握 (H29～ R 8)	—	—	市民意識調査に「水道について」の設問内容を加えて、年度末までにアンケート調査を実施し、ニーズを把握する。	令和4年度の市民意識調査は、第2次総合計画後期基本計画策定時に実施した調査をベースに経年変化を見るための内容になっており、水道水関係の具体的なアンケート調査については実施することができなかった。	定量的な評価が困難な項目	—	—	C	成 果									
											本年度は、調査実施担当部局の考え方から、水道水に関する具体的なアンケートを行うことは出来なかった。									
											課 題									
											市民意識調査に合わせての実施になるので、設問数が限られる。水道利用者のニーズが把握できるような設問内容について検討したい。									
											今後の方向性									
											調査実施担当部局と調整をとりながら、市政全般に関する市民意識調査に合わせ調査を実施していきたい。									